

担い手への利用集積を促進し 魅力ある農業の構築を目指して

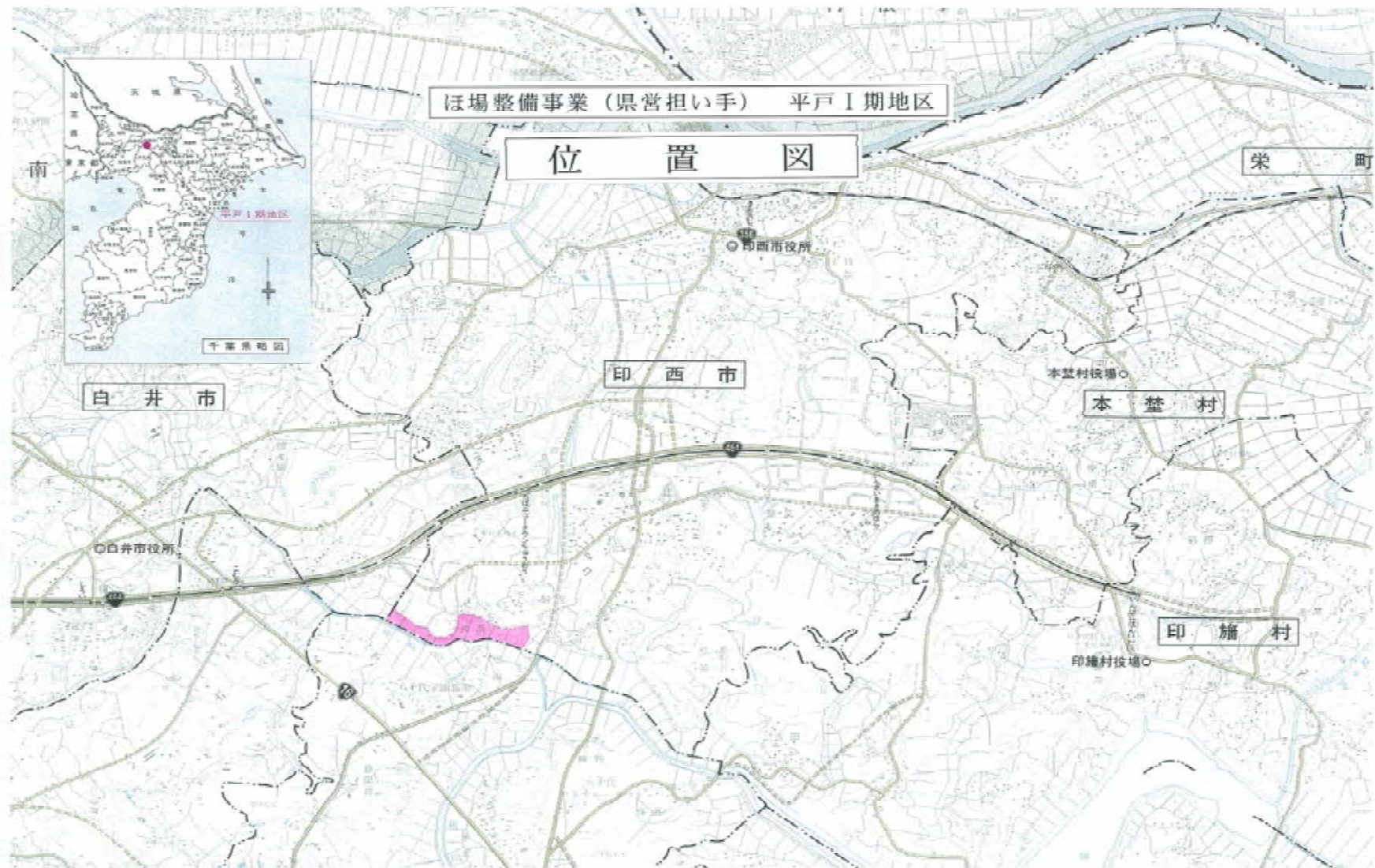
~~~~~ 大豆転作と黒大豆のオーナー制への取組 ~~~~~



黒大豆（オーナー制）

ほ場整備事業（県営担い手）  
平戸 1 期地区（印西市）

印旛農林振興センター



## 1 印西市の概要

印西市は千葉県の北西部に位置し、南東部には印旛沼、北部には利根川、北西部には手賀沼があり、自然環境に恵まれた地域です。

総面積53.51km<sup>2</sup>の内、耕地面積は1,510ha(水田976ha、畑等534ha)で28.2%となっています。

総人口は、60,061人、19,657世帯で、その内農家人口は2,755人で4.6%、農家世帯数1,087世帯で5.5%と少なく、都市化・混住化の進んだ地域です。

### (1) 印西市の農業

本市の農家数1,087戸のうち、販売農家数は885戸、81.4%となっています。販売農家の内訳は、専業農家159戸(18%)、第1種兼業農家139戸(15.7%)、第2種兼業農家587戸(66.3%)となっており、販売農家の過半数を第2種兼業農家が占めています。1戸当りの耕作面積は1.4haで印旛都市の1.9ha、県全体の1.5haを下回っています。

農業産出額は県全体産出額の1%、43.3億円で、県内順位は77市町村中41位、印旛都市内順位は11市町村中5位となっており、主な農業経営部門は野菜と米で、産出額の殆どを占めています。

## 2 導入された事業の概要

本地区は、昭和初期に行われたほ場整備事業により5a区画で整備されましたが、当時の整備水準は低く、道路は狭小で大型機械の搬入ができず、また、用排水条件も不備のため生産性の低い農業となっていました。

そこで、農業の近代化のための基盤整備を行い、農地の汎用化や大規模経営を可能にするほ場の大区画化を図ることにより農地の流動化を促進し、中核農家による営農組合を中心に大型機械を導入した大規模経営体を育成して、経営規模の拡大を通じて水田農業の生産コストの低減を目的に事業を実施しました。

### (1) ほ場整備事業(県営担い手) 平戸1期地区

ア 採択年度 平成9年度

イ 事業期間 平成9年度 ~ 平成14年度

ウ 受益面積 28ha(田24.3ha、畑3.7ha)

エ 総事業費 447,000千円

オ 主要工事

整地工 A = 28ha 暗渠排水工 A = 24.3ha

道路工 L = 2,865m 用水路工 L = 3,269m

排水路工 L = 2,801m



施工前



施工後



(2) 関連事業

ほ場整備事業を契機に、ライスセンターの整備と、生産組織に農作業機械を導入する事業を実施しました。

事業名：千葉県稲作総合生産緊急対策事業（高能率集団育成事業）

事業費：64,528,900円

### 3 事業の成果

事業実施前の本地区は、区画整理はなされていましたが、標準区画は5 a と小さく、道路は狭小で、用水は神崎川からポンプ取水し開水路によりかんがいでいました。

土水路部が多いためロスが大きく、慢性的な用水不足を来たしていました。排水状況は、神崎川に自然排水されていたものの、田面標高が低く、排水路深も浅いことから地下水排除ができず湿田状態となっていました。

このような状況を改善するために、本事業に先立ち、地元による盛土事業が実施され、地区全体の嵩上げが行われました。その後、本事業により水田の大区画化（標準区画100m×100m）、道路・水路の整備、用水路のパイプライン化、暗渠排水が実施され、水田の汎用化と農作業の省力化が図られました。

また、本事業を契機に、営農組織が設立され、農地の集積、作業の受委託が進み、転作大豆の団地化も実現しています。



大型トラクタによる代かき



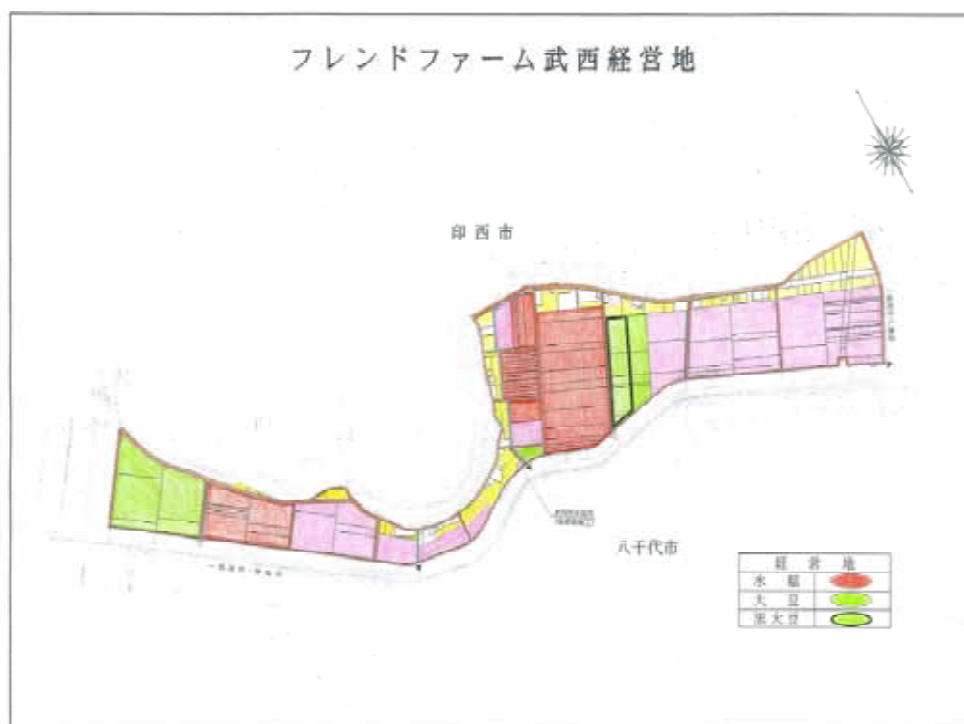
大型乗用コンバインによる稲刈り

#### (1) 育成された生産組織と農地集積

本事業を契機に、本地区の担い手である生産組織「フレンドファーム武西」が設立され、農地の利用集積が図られました。

平成17年現在の経営面積は地区面積の約46%、13haで、そのうち水稲は8haの作付けとなっています。

また、各種補助事業を活用し、大型機械の導入とライスセンターの整備を行い、効率的な稲作を展開しています。



### 【フレンドファーム武西の概要】

設立年月日 平成11年9月11日

#### 目的

この組合は組合員＝仲間の考えに基づく協業経営を柱とする。  
水田がもつ多様な機能を生かし、将来にわたり農業を魅力ある職業として維持、発展させ、後継者の主体的参入を実現させるために、高能率な稲作集団体制の整備を図る。併せて地域社会と調和した水田農業の安定化、効率化に資することを目的とする。

構成員 12名（内オペレーター3名）

所在地 印西市武西新山1065-1

#### 所有施設及び機械

##### ア．施設

- ・事務所 1棟
- ・ライスセンター 1箇所（処理能力：米30ha）
  - 乾燥機（60石×3台、50石×1台、36石×1台）
  - 籾摺機（5インチ×1台）
  - 米選機（1台）



ライスセンターと事務所



ライスセンター内部（乾燥機）

イ．機械

| 機 械 名    | 規 格     | 台 数 |
|----------|---------|-----|
| トラクター    | 9 8 p s | 1   |
| ロータリー    |         | 1   |
| ウイングハロー  |         | 1   |
| レーザレベラ   |         | 1   |
| ブロードキャスト |         | 1   |
| 施肥機付田植機  | 6 条     | 2   |
| 自脱型コンバイン | 4 条     | 1   |
| 〃        | 6 条     | 1   |
| ダンプトラック  | 2 t     | 1   |
| フォークリフト  | 2 t     | 1   |
| 畦畔草刈機    |         | 1   |
| 刈払い機     |         | 1   |



トラクター（98ps）



自脱型コンバイン（6条刈）

## （2）新規作物の導入による転作拡大と地域交流

フレンドファーム武西により、平成12年から転作大豆の団地化がなされ、5haで大型機械を活用した生産が定着し、高蛋白含量の晩生品種が作付けされ、地元業者による豆腐加工利用を中心に地場流通しています。

また、団地内の1haでは平成13年からオーナー制黒大豆の作付けをしており、農村と地域住民との交流の場となりました。

平成17年度は、1ha、約300区画に対して289区画168人の申し込みがあり、応募者は印西市内が主ですが、県内他市町村や都内からもあり、年々人気が高まっています。





転作大豆



汎用コンバインによる大豆の収穫

【フレンドファーム武西黒大豆オーナー制度】

募集区画数 約300区画(1区画10坪)

代金 5,000円/1区画

条件 特になし

(平成17年度応募状況)

・応募人数 168人

・応募区画数 289区画

・市内外別応募人数

市内 104人(168区画) 61.9%

市外 64人(121区画) 38.1%



黒大豆引渡し式



オーナーによる収穫風景

#### 4 今後の課題と改善方法

フレンドファーム武西は、12名の組合員のうち3名がほとんどの農作業を担っており、他は兼業農家あるいは果樹との複合経営農家で、ごく補助的な存在となっています。

本組織は、隣接した経営体育成基盤整備事業平戸2期地区（平成17年度着工～平成21年度完了予定）の担い手として受益面積の約40%、23.4haを担う計画になっていることと、本地区内でのシェアの拡大も予想されることから、人材有効活用の仕組み作り等を行い、経営規模の拡大に対応できる組織体制の整備が必要です。

また、オーナー制黒大豆を足がかりとして、地域を訪れる都市住民等との交流をさらに深め、地域の農産物の直売や観光農業等の展開を検討する必要があります。